**【ドバイ 2019 世界パラ陸上競技選手権大会・第 7 日（11 月 13 日午前）】出場選手コメント**

◆男子走り幅跳び　T20　決勝
・小久保　寛太(社会福祉法人かつみ会)
正直にいって、「悔しい」が一番。助走が安定していなくて、着地も安定していなかったので、そこができていれば、記録も出せたのかなと思う。

3 回終わって、ギリギリ 8 位。焦りはありました。とりあえず、自分で気持ちを落ち着かせて、一本一本跳びました。1 回目がよかったです。まず 1 本目なので、リラックスして跳ぶことを心掛けていました。緊張はしていない。楽しかったです。

人がたくさんいて、日本とは違う雰囲気で、楽しかったです。他の選手の記録がすごかった。自分の一番いいパフォーマンスができなかったのは悔しかった。でかい舞台で記録を出すのは難しいいと思った。日本に帰ったら、着地の練習をやって、もっと記録伸ばしたい。

◆男子やり投げ　F54　決勝
・小曽根　亮（葉山町役場）
手ごたえ的にはよかったので、もう少し飛ぶかなと思ったが、残念です。自己ベストとなる 24m 辺りを狙っていた。今大会で海外のいろいろな選手を見たが、個々に自分のフォームを持っている。教科書はなく、私も試行錯誤しながら、自分に合うフォームを見つけたい。

6 回連続で投げる方式は、自分は好き。試技順も 2 番目で暑熱対策は問題なかった。普段の練習は一人で行うことが多く、やりを拾ってくれる人がいないため、競技用車いす（固定）を使った投てき練習があまりできない（月 1 回程度）点が課題。

東京パラ出場に向けてはランキングを上げる必要がある。仕事の調整などもしながら、海外試合に出場するか検討中。

◆男子 5000m　T54　予選
・樋口　政幸（プーマジャパン）
自分がコンディションを整えられなかったので仕方ないが、思うようにいかなかった。
5000m は決勝に残りたかったが、タイムが遅いので厳しいかもしれない（予選落ち）。
ラスト 2 周で 4 番手に付けて最後にさせるかと思ったが、思ったほどスピードが上がらなかった。

世界がものすごく速くなったというよりは、層が厚くなり付け入るスキがなくなってきた。特に1500mの決勝レースは、あんなにハイペースを維持するレースはなかったので時代が変わってきたことを感じる。遅い選手がいなくなった。

このままの実力だと、東京の出場権を取れても走る価値がないかと思う。少し体を休めて、冬季トレーニングで体を作り、できる努力はしたい。5, 6月には「戻ってきたな」というのをお見せできればと思っている。

・久保　恒造（日立ソリューションズ）
調子が悪いわけではないが、13年ぶりの世界選手権だったので久しぶりに味わった緊張感だった。スローペースに見えるが、実はダニエル選手の走りが独特で、上がったり下がったりするので、後ろで休めるようで休めない。

ランキング的には世界7番手のタイムを持っているが、試合では思うようにいかない。みんな強くなっているのは分かっていたが、その差が少しは縮まっているかと思ったがそんなことはなかった。今は皆が実力があり、（レース中）いつ誰がどこで飛び出すか分からない状態で、気が抜けない。自分は余裕がないので、常に気を張り詰めている感じ。東京パラまでは5000mに専念して、出場を目指したい。

・渡辺　勝（凸版印刷）
負けました。悔しいですが、これが力だと思うので、また考え直します。すごいスローペースだったので、周囲の状況を見ようと、一度先頭に立ってみた。前回の世界選手権でラワッタナ選手(タイ)の後ろについて失敗しているので、今回は前に出ようと思っていた。最後は負けたが、（前に出たこと）は評価したい。

ラストラップの実力というより、そこにどれだけ余力を残していけるかということがポイント。自分には残っていなかったし、地力の差を感じた。4位以内を取りに来て、取れなかった時のことは全く考えていなかった。帰ってから考えます。

（コメント協力：星野恭子）